

2 国内情報

中国四国地域における畜産環境をめぐる 最近の情勢(経過報告)

中国四国農政局生産流通部畜産課 畜産環境対策官 緒方孝行

1. はじめに

中国四国地域は、積雪のみられる日本海側、温暖寡雨の瀬戸内沿岸、温暖多雨の太平洋側の3つに大別され、気象条件は大きく異なっている。

地形的には、中国山地、四国山地が縦断しているため、急峻な山地が広がり、傾斜地、島しょ部も多く、このような地理的事情から、管内534市町村の約3/4に相当する396市町村が中山間地域に該当し、中山間地域の占める割合が極めて高くなっている。

このように、土地条件には恵まれていないが、多様な気象条件や比較的大消費地に近いという立地条件を活かし、稲作をはじめ畜産、野菜、果実等多彩な農業生産活動が展開され、農業粗生産額(8年)は11,221億円(全国の約11%)を算出、うち畜産は2,539億円で約23%を占めている。

管内9県における気候・風土・地理的条件が大きく異なることから、畜産分野においても地域的な特徴がみられる。中国地域の中山間地域は伝統的な黒毛和種の繁殖地帯、肥育は四国地域、酪農は中国四国の平坦部、採卵鶏・ブロイラーは瀬戸内地域といったように大別され、畜産主産地を形成している。酪農の岡山、肉牛繁殖の島根、養豚の愛媛、採卵鶏の岡山・広島、ブロイラーの徳島などがその代表的な例であり、近年の消費の高級化、多様化、安全志向に対応し牛肉、豚肉、鶏肉等についての産地ブランド化への取り組みが活発化している。

2 農業キーテクノロジーの推進

このような状況の中、畜産由来の環境問題は、飼養規模の拡大や市街化・混住化が進展する中で、単なる苦情にとどまらず、地域全体の紛争へと発展するケースが見られる等複雑多様化してきており、早急な対応が求められ、また、最近、環境に配慮した低投入・持続型農業が注目を浴びるようになってきている。

農政局としてもこれらを積極的に推進すべく、農業の主要な分野において、生産性の向上に大きく寄与し、これからの担い手が夢と可能性をもてるような革新的な技術を農業キーテクノロジーとして設定し、今世紀中の確立・普及を目指している。全国段階では10課題が設定されているが、中国四国地域としては地域の特性に応じ6課題を選定し、管内の試験研究機関、行政、農業団体等と連携を取りながら技術課題の解決、新技術の開発やその実用化・普及を進めている(表1)。管内で選定した6課題の1つに「有機資源リサイクルシステム」を設定し、以下のような取り組みを行っている。

表1 農業キーテクノロジー(中国四国地域)

・日本型直播稲作技術
・果樹栽培における省力・軽労働化、高品質果実生産技術
・だいこんの流通を含めた機械化一貫体系技術
・芝型放牧技術
・大豆の不耕起は種による省力、安定多収栽培技術
・有機資源リサイクルシステム

3. 農業キーテクノロジー「有機資源リサイクルシステム」の取り組み状況

(1)「中国四国地域有機資源リサイクルシステム推進会議」の設置

平成9年10月24日、有機資源リサイクルシステムの確立を図るため、食品産業団体、農業者団体、試験研究機関、行政で構成する「中国四国地域有機資源リサイクルシステム推進会議」が設置期間を4年間(9年度から12年度)として設置された。

推進会議では、

- ①堆肥化等による未利用資源の有効利用、
- ②適正な処理による環境負荷の低減、
- ③土づくりによる農業生産の改善

の視点で、地域内、広域での望ましい有効利用システムを確立するとともに、関連技術の普及と利用促進を図ることとした。

(2)「有機資源リサイクルシンポジウム」の開催

「有機資源リサイクルシステム」の確立・普及の一環として、9年10月24日に岡山市内において、(財)畜産環境整備機構の協力を得、畜産を中心とした「有機資源リサイクルシンポジウム」を開催した。

シンポジウムには、管内の行政、普及、指導機関、農協、民間団体、畜産・耕種農家等250名が参加。岡山大学横溝助教授が「わが国における持続的畜産経営の確立と家畜ふん尿の堆肥化処理」と題して基調講演、地域が共同で堆肥化処理施設の整備に取り組めば、作業が効率化され大幅なコスト削減が図れると強調。続いて、畜産農家と耕種農家の連携により堆肥の有効利用を図っている事例として、①JAとうはく(鳥取県)、②JA島根おおち(島根県)、③幸農会堆肥生産利用組合(岡山県)、④JA美祢(山口県)での取り組み事例を発表。その後、横溝助教授を座長に「地域における有機資源リサイクルの現状と今後の方向について」というテーマでのパネルディスカッションを行い、活発な議論が交わされた。

当日、参考資料として「管内堆肥センター一覧」及び「堆きゅう肥の生産者・需要者・流通業者リスト」を配布した。

(3)「有機資源リサイクルシステムに関する調査」の実施

9年12月、「中国四国地域有機資源リサイクルシステム推進会議」の検討に資するため、

- ①県における有機資源リサイクルシステム進捗状況、
- ②有機資源リサイクルシステム取り組み事例、
- ③有機資源利用状況(アンケート調査)

についての実態調査を行った(表2参照)

表2 有機資源リサイクル推進上の問題点及び今後の課題(各県調査結果)

問 題 点	今 後 の 課 題
1. 生産面 ①堆肥化マニュアル ・使用者が求める品質の堆肥がない ・作物別に要望が異なる ・コストがかかる ・手間暇かかり、労力が不足 ・食品残さ、産業廃棄物等の堆肥化技術や情報の不足 ②堆肥の需要 ・季節による需要量の変動が大きい (必要な時期に必要な量が確保できない) ③堆肥化施設 ・設置に多額の資金が必要 2. 流通面 ①堆肥の需要 ・地域、農家により需要にアンバランスが生じている ②流通システム未確立	・均質で良質な堆肥の製造 ・肥料成分換算の検討 ・使用者ニーズに応じた堆肥の製造 ・低コスト製造技術の確立 ・食品残さ、産業廃棄物等の堆肥化技術の確立 ・保管場所(施設)の確保 ・公共団体等の援助 ・需要の把握 ・利用状況等の実態把握 ・流通システムの確立 ・耕畜連携システムづくり

<p>③運搬経費がかかる</p> <p>3. 使用面</p> <p>①散布労力等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、女性化等により散布労力が不足 ・土地集積が十分でない <p>②運搬車</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・計画的な出荷先の確保 ・利用方法を検討 <ul style="list-style-type: none"> ・散布人員等の確保 <ul style="list-style-type: none"> ・運搬車の確保
---	---

(4)「第2回中国四国地域有機資源リサイクルシステム推進会議」の開催

10年3月25日には、第2回の推進会議を開催し、(3)で実施した実態調査結果等に基づく問題点、課題の整理をし(表2参照)、今後の推進会議の進め方等について検討した。今後は、

- ①需要者ニーズ(時期、品質等)への対応方向、
- ②堆肥供給センターへの支援方向、
- ③需要サイドと供給サイドの連携体制づくりに対する支援方向、
- ④地域内、広域での流通システムの確立の方向、
- ⑤需要サイド、供給サイド、行政等の担うべき役割の方向、
- ⑥地域の実情に応じた有効利用システムの検討及び実践

等について検討し、先進的な取り組み事例のケーススタディ、現地調査、セミナーの開催等を行うこととした。

(5)10年度の取り組み

(4)の結果を受け、10年9月に第3回の推進会議を開催し、実態調査結果等に基づく問題点、課題への対応方向の検討、リサイクル技術、利用技術の検討等を行うこととしており、その後11年2月には第4回の推進会議を開催し、中間報告のスケルトンを作成する予定としている。

4 地域農政推進強化委員会「加工・流通・消費」プロジェクトチームでの検討

8年9月、新たな基本法の制定に向けた検討を推進するため、「中国四国農政局新基本法検討推進本部」が設置され、9年9月には同推進本部の下に「中国四国農政局地域農政推進強化委員会」を設置、農政局本来の役割である地域特性に応じたきめ細かな農政の展開を推進し、活力に満ちた農業・農村づくりをより一層積極的に支援していくため、現下の状況を踏まえた今後の地域農政の推進及び強化方策、内外に向けた積極的な広報活動の展開、地域に出向いての農政現場をはじめとした各界との意見交換、各種情報の収集・整理・活用等について検討・実施することとされた。

同委員会「加工・流通・消費」プロジェクトチームでの検討項目として「有機資源の有効利用等環境循環型社会発展に向けての支援のあり方」が取り上げられ、種々検討の結果、10年6月、「個々の畜産農家等における取り組みの強化を図るとともに、地域の堆肥供給センター等を核とした供給サイドと需要サイドの連携による望ましい有効利用システムの確立を目指した取り組みを支援・推進することが必要」との検討結果要旨を取りまとめた。